

JR烏山線烏山駅前大谷石造倉庫群の再開発について☆烏山石造倉庫大作戦☆

宇都宮共和大学シテライフ学部内藤マーケティング論ゼミ

1. 提案の目的

JR烏山線烏山駅前にある近代化遺産『烏山通運(株)石造り倉庫群』を活用して、那須烏山市民と市外からの観光客に「触れ合い」、「集い」、「憩い」を提供する新しいタイプの総合施設を創設することによって、観光客の集客を可能にし、駅周辺地域を中心に那須烏山市民全体の活性化を図る。

- ☆触れ合い: 那須烏山市民と観光客の触れ合いの場
- ☆集い: 那須烏山市民相互の交流の場
- ☆憩い: 那須烏山市民と観光客が共に文化や歴史、産業に接することのできる憩いの場

2. 烏山通運(株)石造り倉庫群見学(2015年2月3日・火)

①見学を通じてわかったこと

- ・明治30年新井萬吉が運送・通運業を開業。
- ・大正12年、現在の場所で営業開始。
- ・大谷石造り倉庫は昭和14年に2棟、昭和15年に1棟が建造された。
- ・米と葉タバコの産地倉庫としてスタート
- ・米は戦争中の統制、タバコは専売制度のため取り扱わなくなる。
- ・現在は、自動車部品などの保管倉庫として利用されている。

②倉庫に対する印象

- ・駅から近い所にあるが場所が分りにくい。
- ・大型トラックなどが良く通るので交通の面で配慮が必要。
- ・意外と小さい。面積:198.34㎡(60坪)
- ・すぐ隣に一般の住宅がある。
- ・防音設備等が必要になりそう。
- ・駐車場等の周辺施設を有効に活用できると良い。

資料: 足利工業大学工学部都市環境工学科福島研究室 協力: 烏山通運株式会社



3. 参考にした施設: 横浜赤レンガ倉庫

①開発以前の赤レンガ倉庫



資料典: 横浜赤レンガ倉庫HP <http://www.yokohama-akarenga.jp/about/history/>
横浜市港湾局赤レンガ倉庫HP <http://www.city.yokohama.lg.jp/kowan/m-sight/akarenga/>

開発のテーマ

『港の賑わいと文化を創造する空間』



②現在の横浜赤レンガ倉庫



③横浜赤レンガ倉庫の施設

2棟間広場=イベント広場



2号倉庫=商業施設 1号倉庫=文化施設

4. 新しい施設の概要: 3棟の石造り倉庫をすべて活用できるとしたら、どんな構成の施設にすればよいか。



公民館・集会所・会議室等

- ・成人式等式典
- ・発表会
- ・演奏会
- ・バンドライブ
- ・演劇



3号倉庫: 集いの場

中央広場

1号倉庫: 憩いの場

歴史博物館

- ・近代化遺産展示
- ・大金クジラ実物大模型
- ・烏山城再現ジオラマ

和紙陶芸美術館

- ・和紙陶芸作品展示
- ・和紙陶芸製作体験
- ・和紙陶芸作品直売所



- ・足湯・屋外ライブスペース
- ・ドッグラン ペットカフェ 動物触合い広場



☆憩いの場、集いの場、触れ合いの場を連結する機能を持つ施設。
☆季節ごとに様々なイベントを展開する空間となります。

2号倉庫: 触れ合いの場

- ・那須烏山市特産品販売所
- ・レストラン
- ・喫茶店
- ・観光案内所
- ・まちの駅(道の駅)



JR烏山駅